

【 会 議 録 】

作成日	令和 6 年 11 月 1 日	作成者	環境推進課
会議名	令和 6 年度 第 2 回刈谷市環境審議会		
日 時	令和 6 年 11 月 1 日 (金) 10 時 00 分～11 時 30 分	出席者	別添のとおり ・ 委 員 13 名 ・ 事務局 9 名
場 所	市役所 3 階 301 会議室		
資 料	別添のとおり		
議事内容	下記のとおり		

【開会】

【挨拶】

- ◆会長より挨拶

【議題】

- ◆委員・出欠の確認等
- ◆以降、会長により進行

(1) 「令和 6 年版 刈谷市の環境」について

資料 1 に基づき事務局から説明

◆意見・質疑

- 委員 : p. 110 「刈谷市の CO₂ 排出量の推移と目標値」について確認だが、2020 年度に CO₂ 排出量が減少しているのは新型コロナウイルスによる影響ということか。
- ⇒事務局 : ご認識のとおり。
2020 年度における CO₂ 排出量の減少は、新型コロナウイルスの影響による経済活動等の縮小が主な要因と考えられる。新型コロナウイルスが落ち着いた 2021 年度においては、落ち込んでいた経済活動が活発化したことで、CO₂ 排出量が増加したと考えられる。
同様の理由で、p. 116 「エネルギー消費量」の推移においても、2019 年度まで減少傾向が続き、2020 年度に大きく減少した後、2021 年度に増加している。
- 委員 : p. 117 「電力の CO₂ 排出係数」についても、2020 年度まで減少傾向にあったものの、2021 年度に増加に転じている。排出係数は新型コロナウイルスとは直接的な関係がないと思うが、増加した原因としてどのようなことが考えられるか。

【 会 議 録 】

⇒事務局 : 電気事業連合会によると、原子力発電設備の定期検査に伴い、小売電気事業者が供給する電気に占める原子力の比率が低くなり、火力を含むその他の電源比率が増えたことが要因とされている。

(2) 「次期計画のパブリックコメント案」について

・資料 2、資料 2-1 に基づき事務局から説明

◆意見・質疑

委員 : p. 35「評価指標⑧ 環境に関する講座や講演会・イベントの年間参加者数」の現状値と目標値が、資料 1 の p. 11「環境関連講座への年間の参加者数」と異なっているのは何故か。

⇒事務局 : 資料 1 でご確認いただいたのは、現行計画である「第 2 次刈谷市環境基本計画」の環境指標であり、資料 2 でご確認いただいているのは、次期計画である「第 3 次刈谷市環境基本計画」で新たに設定した評価指標である。次期計画では、環境関係講座の充実等により、目標値を現行計画の 1,500 人から 2,000 人に引き上げていこうと考えている。現状値については、現行計画の指標には計上していない「環境講演会」の参加人数を、次期計画の指標には計上しているため、異なる数値となっている。

委員 : p. 48「ごみの不法投棄や散乱の防止」について、現状、カラスや猫によるごみの散乱や、地区の住民でない者による不法投棄等の問題が散見され、現場は大変な状況である。こうした問題に対して、具体的な施策は検討されているか。

⇒事務局 : 各地区で設置していただいているカラス除けネットについては、強度が高い頑丈なものを試験的に導入し、その効果検証を行っている。効果が認められれば、市内全域に導入していきたいと考えている。不法投棄については、ごみ収集時にパトロール巡回を行う等、未然防止に努めている。

委員 : 特に、月・木曜日の出勤時間帯の不法投棄が多いと聞いている。組長を見張りとして立たせるわけにもいかない為、よい対策を考えてほしい。

⇒事務局 : ごみの散乱については、近隣自治体の取組も参考にしながら、より良い取組を検討していきたい。不法投棄については、問題が生じた際にごみ減量推進課まで連絡をいただければ、パトロール強化等の対応をさせていただく。

委員 : 指定ごみ袋の有料化については検討されているか。

⇒事務局 : 実施する段階にはないが、令和 5 年度策定の「一般廃棄物処理基本計画」において、有料化を検討していくことを明記しているため、近隣自治体の

【 会 議 録 】

状況等も踏まえて検討していく。

委員 : p. 34「評価指標① 二酸化炭素排出量の削減率（対 2013 年度比）」について、2021 年度の削減率が 18.5%のところ、2034 年度には削減率 58.4%を目指すこととしているが、10 年間で 3 倍以上の削減という目標は、現状値からかけ離れ過ぎているのではないか。p. 33「方針 1 脱炭素化を目指す」における施策の実施によって、達成できるものなのか。

⇒事務局 : 令和 5 年度に策定した、地球温暖化対策に特化した計画「刈谷市環境都市アクションプラン」では、国が示した「2030 年度の温室効果ガス排出量を 2013 年度比で 46%削減する」という目標を踏まえ、「2030 年度の温室効果ガス排出量を 2013 年度比で 48%削減する」という目標を設定している。

「第 3 次刈谷市環境基本計画」は「刈谷市環境都市アクションプラン」の上位計画であるため、「刈谷市環境都市アクションプラン」の 2030 年度目標値を基準に、2034 年度目標値（58.4%）を算定している。

ご指摘のとおり、目標の達成が非常に難しいことは重々承知している。目標の達成に向けては、エネルギーミックスの推進といった国の政策等に加え、省エネ・創エネに関する取組等、市としてできる限りの施策を実施していく他ないと考えてる。方針 1 における施策は「刈谷市環境都市アクションプラン」の施策と連動したものとなっている為、目標達成に向けた施策としては妥当であると考えている。

委員 : 本計画においては、関係する主体が市民・事業者・行政だけでなく、ボランティア団体や自治会等の市民組織も含まれている。計画に位置付けたそれぞれの取組について、どの部署や企業、市民組織が関わっていく必要性があるのかを、可能であればマトリックスのような形で示していただきたい。事務局として、「誰に」対して「どの程度の」取組を「いつまでに」お願いしたいのかを具体的に示すことで、実際の取組内容と目標が繋がっていくのではないかと。

⇒事務局 : ご指摘のとおり、高い目標値を掲げるだけでは、それぞれの主体が実施する取組内容との繋がりが見えてこないことは承知している。

国は「民生家庭部門」をはじめとする各部門で 2013 年度比の削減率を設定しているが、市としては、各主体に求める取組や成果の妥当性を判断できない為、主体ごとに削減目標等を設けることが難しい。そのため、事務局が施策や事業を示し、それを元に各主体に働きかけを行うことで、目標達成に繋げていきたいと考えている。

委員 : 国が示す目標だからという理由で高い目標値を設定するのは、実情にそぐわないという点で適切ではないのではないかと。

本計画だけでなく、「刈谷市環境都市アクションプラン」の目標について

【 会 議 録 】

も、目標年度まで残り 6 年しかない中で、温室効果ガス排出量を 30%削減していくという目標は現実的ではなく、取組ごとの目標や進捗管理も不明瞭である。

高い目標値を掲げるだけでなく、取組ごとの目標設定や具体的な進捗管理、取組内容の見直し等を毎年実施していかないと、「絵に描いた餅」となってしまう。

⇒事務局 : 「刈谷市環境都市アクションプラン」には、取組ごとの削減目標を、具体的な数値で記載している。取組の進捗管理や削減効果は毎年取りまとめを行い、「刈谷市環境都市アクションプラン推進会議」に諮ったうえで、市の HP 等で公表している。

会長 : 本計画は、ご指摘のとおり「絵に描いた餅」ではあると思うが、「絵に描いた餅」の中でもこのレベルの計画を持っている自治体は、岡崎市、みよし市、刈谷市のみだと認識しており、その他の自治体は「絵に描いた餅」すらない状況である。

市全域で考えると、実際の取組内容と目標の繋がりが見えにくい。「絵に描いた餅」である本計画の妥当性を示すには、ある拠点をモデル地区として指定し、取組内容の効果を検証していく必要があると考える。

例えば、モデル地区において、次世代自動車や省エネ設備等の導入促進に係る施策を重点的に実施し、その結果として脱炭素化がどの程度達成できたかを把握することで、取組ごとの成果を市民や事業者へ示すことができる。そうすることで、市民や事業者も、施策の効果や妥当性を判断できるようになる。

今後、国による「カーボンニュートラル」に向けた施策の縮小が懸念される中で、仮にトリガー条項が撤廃された場合、ガソリンの消費量は増加し、環境施策における理想と現実の乖離はますます進む可能性がある。

数ある国の施策の中でも、環境分野の優先順位は低いのが現状ではあるが、何も対策を行わなければ、地球温暖化は進む一方である。仮に南海トラフ地震などの大規模災害が発生してしまえば、環境施策はますます後回しになる。そういった事態に備え、平時から脱炭素に向けた環境施策を進めていかないと、世界から日本はどんどん置いて行かれることになる。

こうした現状の中で刈谷市としてどういった施策を進めていくのかを、モデル地区における取組をとおして市民や事業者に示し、市内全域での取組に繋げていくことが重要である。

会長 「次期計画のパブリックコメント案」については、目標に向けた取組の妥当性について委員の皆様にご指摘を頂いたところではあるが、案として形にしたことが大きな一歩だと思う。ひとまずはこの内容でパブリックコメントを実施するという事によろしいか。

【 会 議 録 】

委員一同 異議なし

(3) 「今後のスケジュール」について

・資料 3 に基づき事務局から説明

◆意見・質疑

特になし

【閉会】

以上